

日銀短観（2017年3月調査）の概要

非製造業を中心に人材不足

日本銀行が4月3日に発表した2017年3月（回答期間：2017年2月27日～2017年3月31日）の全国企業短期経済観測調査（短観）では、企業の景況感が改善した一方で、先行きにはなお慎重さがにじみ出るものとなりました。米国の新政権や欧州連合（EU）を離脱する英国などの先行き不透明感から、海外経済は依然として不安が残るようです。以下、概要です。

- ① 大企業製造業の業況判断指数（D I）はプラス12と、前回調査を2ポイント上回りました（図表1、2）。改善は2四半期連続。世界経済の回復を背景に、自動車等の輸出企業の景況感が改善したものの、先行きには慎重な見方も多いようです。
- ② 大企業非製造業は、プラス20と前回から2ポイント改善（図表1、2）しました。円安でインバウンド消費が復調していることが影響し、宿泊・飲食サービス等を中心に大幅に改善となりました。
- ③ 景況感の回復は中小企業にも広がっています（図表1、2）。製造業D Iはプラス5と、前回から4ポイント改善し、2007年6月以来およそ10年ぶりの高水準となりました。中国の過剰在庫調整が進んだこと等を背景に、鉄鋼や金属製品などが大きく改善しました。
- ④ 雇用人材判断D Iは全規模全産業でマイナス25と、人材不足感は25年ぶりの高い水準となりました。非製造業で目立っており、大企業でも非製造業の不足感の方が深刻となっているようです（図表3）。今後3カ月の見通しを見ても、非製造業の中小企業の悪化幅が最も大きく、小売りや卸売業などを中心に人件費の増加に悩まされる構造がみとれます。

図表1：業況判断D I（2017年3月）

（「良い」－「悪い」、ポイント）

		2016年12月調査		2017年3月調査			
		最近	最近	先行き		変化幅 (*2)	
				変化幅 (*1)	変化幅 (*2)		
大企業	製造業	10	12	2	11	-1	
	非製造業	18	20	2	16	-4	
	全産業	14	16	2	14	-2	
中堅企業	製造業	6	11	5	4	-7	
	非製造業	16	17	1	10	-7	
	全産業	12	15	3	8	-7	
中小企業	製造業	1	5	4	0	-5	
	非製造業	2	4	2	-1	-5	
	全産業	2	5	3	-1	-6	

(*1) 2016年12月調査比 (*2) 2017年3月（最近）比

出所：図表1～3は日銀短観データを基にニッセイアセットマネジメント作成

【参考レポート】 日銀短観（2016年12月調査）の概要（当社金融市場NOW 2016年12月26日号）

●当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。●当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料のグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。●投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。●手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品をお勧めするものではないので、表示することができません。●当資料のいかなる内容も将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。

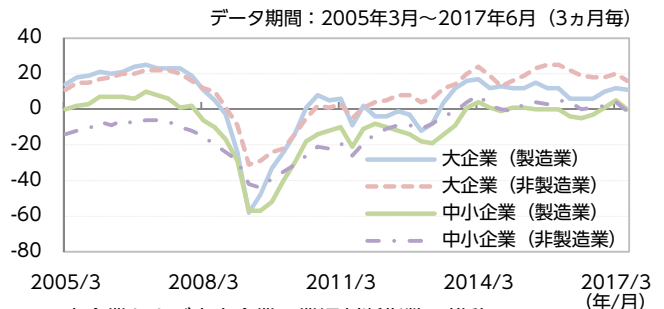
商号等：ニッセイアセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第369号

加入協会：一般社団法人投資信託協会 一般社団法人日本投資顧問業協会

ニッセイアセットマネジメント

1/1

図表2：景況感の先行きに関しては慎重な見方が多い



図表3：大企業・中小企業ともに人手不足が深刻に

